

ESD・持続可能な社会、次代を担う彦根の子供を地域で守り育てます。

滋賀県彦根市

活動名

彦根市学校支援地域本部

関係する学校

中学校7(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝) 小学校17(城東・城西・城南・平田・城北・佐和山・旭森・城陽・若葉・金城・鳥居本・鳥瀬・亀山・高宮・稲枝東・稲枝西・稲枝北) 幼稚園3(平田・金城・稲枝東) 保育園3(みづほ・ふたば・ことぶき)

| 活動区分 | | ※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況) | | | |
|-------------|----------|-------------------------------|-----------|--------|--------------|
| 基本データ | 土曜日の教育活動 | コーディネーター数 | 子供の平均参加人数 | 開始年度 | 補助の有無 |
| | 学校支援地域本部 | 27人 | 682人 | 20年度 | 有 |
| | 放課後子供教室 | コーディネーター数 | 子供の平均参加人数 | 年間開催日数 | 補助の有無 |
| | | 実施場所 | | 開始年度 | 放課後児童クラブとの連携 |
| コミュニティ・スクール | 指定日 | 委員数 | 児童生徒数 | 学級数 | |

活動の概要

○教員が子供と向き合う時間の確保など、多様な形態の教員支援を可能とするため、地域全体での学校教育の支援、および学校と地域との連携体制の構築を推進するもの。さらに、地域住民が自らの経験や知識を生かす場として、自己実現や生きがいづくり、地域の人材活用・活性化と、地域づくりにつなぐ。7中学校区(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)で実施する。

■取組の経緯・状況

- 平成20年度から3年間の文部科学省委託事業
- 平成20年度 東・稲枝 2中学校区で事業が始まる。
- 平成21年度 東・西・鳥居本・稲枝 4中学校区に拡大
- 平成23年度市の事業(国・県・市1/3ずつ負担) 市内全7中学校区で実施(市内全小中学校24校で実施)
- 平成24年度 市内7中学校区地域教育協議会
- 平成25年度 市内7中学校区地域教育協議会

- ・(従来型/東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型/中央・稲枝)・予算 4,583,000円(補助金3,055,000円)
- ・H25.26年度の取組重点(継続)地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
- ・実行委員会の開催(年3回) 構成委員:15名(中学校長、地域コーディネーター)+事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹) 8月2日事業説明・実践交流 11月28日研修会・実践交流 3月4日実践のまとめ・振り返り
- ・学校訪問 11月7中学校区訪問
- 平成26年度 市内7中学校区地域教育協議会 ESD持続発展する事業展開(従来型/東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型/中央・稲枝)
- ・予算 4,613,000円(補助金3,075,000円)
- ・実行委員会 ・実践交流会(研修会) ・学校訪問

● 特徴

【特徴的な活動内容】

- 東中学校区【従来型】○3小学校での登下校見守り、安全指導。小中学校での読み聞かせと図書室環境の整備○夏季休業中の希望する児童生徒への学習補助支援○放課後の学習支援(11月~3月)○課題のある児童生徒や別室(登校)児童生徒に対する授業の補助○中学校の部活動支援○地域へ広報紙を発行、学校支援の啓発○その他学校のニーズによる支援活動
- 稲枝中学校区【いじめ対応型】○地域支援協議会の開催。ボランティア募集や広報活動。広報(いなっ子)発行○支援ボランティアの交流会○保幼小中学校で、読み聞かせボランティアの活動推進(読み聞かせ研修会)○登下校時の安全指導○畑や花壇の栽培支援、中庭の剪定等の支援○中学校の部活動指導支援○各小学校の地域学習・体験学習の活動支援 ○いじめ対応は、登下校の見守り、部活動、地域学習、学習活動時に、いじめ防止の視点で児童生徒を観察し、いじめの芽を摘む声かけや学校との連絡・連携をとる。

【実施に当たっての工夫】

7中学校区がそれぞれ、地域協議会を開催し、計画・立案・実践を展開し、各校区の特徴・各校のニーズを生かした支援活動を展開している。学習支援活動では、各中学校で、地域の教員OBや学生の参画により、無理のない形で、学習支援を継続している。地域の学習教材を生かした活動支援も充実し、彦根城ウォークラリーや中山道長距離遠足など、学校行事・体験活動への支援も続けている。平成25年度からのいじめ対応型については、ボランティアによる児童生徒の観察や声かけ、教員との連絡・連携などにより、子供たちの仲間づくり、安心感づくりにつながっている。各校区の広報誌やチラシも充実しており、様々な情報を発信している。彦根市の実行委員会では、7中学校区の情報を交流することで、互いの実践のよさを認め、また課題の提示と課題解決を協議することで、さらなる本事業の充実を図っている。県教委の本事業担当者の講義を組入れ互いに学び合うこともできた。市教委本事業担当は秋に学校訪問をし、それぞれの校区の取組状況を把握、成果と課題についてとりまとめ、実行委員会で話題提供する。年度末の実践事例集も24小中学校に執筆依頼し作成、ポスターとともに発信した。

● 事業を実施して

- 成果○全小学校、中学校で取り組むことで、地域住民が、学校内外で、子供と接する機会、会話が多くなり、豊かなかわりができた。○地域コーディネーターが中心になり、定期的に広報活動やチラシ・ウェブサイト等を作成することで、子供やボランティアの様子、学校支援の取組内容が、地域へ発信できた。周知を図ることで、「地域の子は地域で守り育てる」機運が高まった。○地域協議会、実行委員会での交流により、取組体制や支援内容、方法について情報共有できた。
- 課題○地域コーディネーターと学校関係者が連携を図り、地域支援者をさらに巻き込む取組の開発○事業を支える支援ボランティアの確保○人材バンクの整備

● その他

彦根市では、ESD(持続発展教育)・持続可能な社会を担う人づくりを進めている。さらに「学び合い・つながり・生かす生涯学習のまちづくり」を進め、豊かな地域コミュニティの創造にも力を入れている。平成25年度末の彦根市社会教育委員の会議からの提言の中でも、本市の学校支援地域本部事業の大切さを強調していただいているところである。今後、コミュニティスクールを視野に入れた取組についても検討していく。



琵琶湖岸クリーン活動



放課後学習支援